

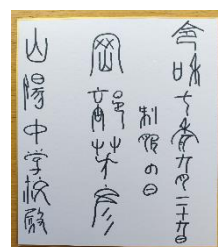


「制服の日講演会」

本校は、9月28日を「制服の日」として定めています。従来の男子の詰襟学生服、女子のセーラー服・スカートから男女とも現在のブレザー・スラックスを標準服とし、新入生からその制服を採用することを令和2年9月28日に発表したことに因(ちな)んでいます。そして、制服改変には、ジェンダーレス(genderless「男女の社会的・文化的な差がないこと」を目指す考え方)の思いが込められています。そのため、毎年、この「制服の日」には、性差(ジェンダー)をできるだけなくし、性別による固定観念や役割分担にとらわれず、誰もが自由に自己表現し、機会を平等に持つことを目指した講演会を実施してきました。また、昨年度は制服そのものをテーマとし、制服の歴史や着こなし方について、本校制服の製作・販売を手掛けていただいている官公学生服の中島 真彦さんからの講演を聞かせていただきました。

6回目を迎える今年度の講演会では、ジェンダーレスの観点や制服にしばって講師を選定するのを見送りました。これからは、ジェンダーレスの観点も含めた、より多様な生き方に対応し、幅広く活動されている講師をお招きする必要があります。そして、山陽中生それぞれの「在りたい自分」探しに役立ててもらえるような「制服の日講演会」にしていきたい、と強く願っているからです。

そこで本年度は、9月29日(月)に本校区在住の神戸学院大学経済学部教授、国際交流センター所長の岡部 芳彦教授をお招きし本校体育館で実施しました。岡部教授は、ウクライナ研究会会長を務められ、ウクライナ研究で数多くの業績を残されています。そのため日本におけるウクライナ研究の第一人者と言われています。また、在神戸ウクライナ名誉領事を務められ、日本においてウクライナの支援活動を続けておられます。



私が岡部教授に講師をご依頼した理由の一つに、兵庫教育(県立総合教育センター発行)に寄稿されている記事を目にしたからです。本講演会のなかでも述べられていましたが、ご本人が高校3年生のときにロシアへ渡航されたときの話を読み、感動しました。それは、「ソ連崩壊を見に行こう」というツアーにひかれ、大学受験生の身でありながら、お父様に次のようにロシア行の願いをされたそうです。

「大学受験はどうする?」との父親の問いに、「大学受験は毎年あるが、ソ連崩壊は一度しかない」と即答した、と。「確かに」と納得され、渡航を許可したお父様もすごいです。純粋に「在りたい自分」を目指して岡部教授が踏み出した第一歩に感動しました。そして、この後の岡部教授がどのような人生を送られ、ウクライナ研究の第一人者になられたのか、を知りたくなりました。

本講演会では、「陽気で明るく美味しい国ウクライナと日本、そして姫路」と題し、予定時間を15分オーバーしながらもユーモアたっぷりに本校生に岡部教授の活動やウクライナについて教えていただきました。なかでもゼレンスキー大統領の後ろで集合写真に紛れ込んだ話、大統領との自撮りや大統領賞「黄金の心」の授賞式でのエピソードなど楽しく聴かせていただきました。

また、3年生の質問に対する回答のなかで、現在のウクライナの街の様子について、次のように述べられたのが印象的でした。「レストランは普通に営業しているし、会社にも行くし、普通に道を歩いている。そんなときに空襲警報が鳴って、ドローンが飛んでくる、といった非現実、非日常のなかに、日常が続いている」と。また、別の質問で「まだまだ休戦になるまでには時間がかかると思いますが、私が(この戦争についての記事で)メディアに登場することがなくなることを願います」と。

結びにあたり、一日もはやく日本の隣国ロシアとその隣のウクライナとの戦争が終結し、平和な日常を取り戻すことができますように祈念します。そして、岡部教授におかれましては、本校生のために映像を交えた分かりやすく楽しい講演をしていただき、心より感謝申し上げます。有難うございました。